

【】 国名・地形

[国名]

[解答 1](1)A 韓国(大韓民国) B 北朝鮮(朝鮮民主主義人民共和国)

C 中国(中華人民共和国) D モンゴル E フィリピン F ベトナム G マレーシア

H インドネシア I シンガポール J タイ K インド L イラン M イラク

N サウジアラビア O アラブ首長国連邦 (2)A ソウル C ペキン K デリー

※入試出題頻度：「中華人民共和国○」「インド○」「サウジアラビア○」

(頻度記号：◎(特に出題頻度が高い), ○(出題頻度が高い), △(ときどき出題される))

[解答 2]A 東アジア B 東南アジア C 南アジア D 西アジア E 中央アジア

※入試出題頻度：この単元はときどき出題される。

[地形]

[解答 3]A ヒマラヤ山脈 B チベット高原 C 長江 D 黄河 E メコン川 F ガンジス川

G インダス川 H アラビア半島 I インド洋

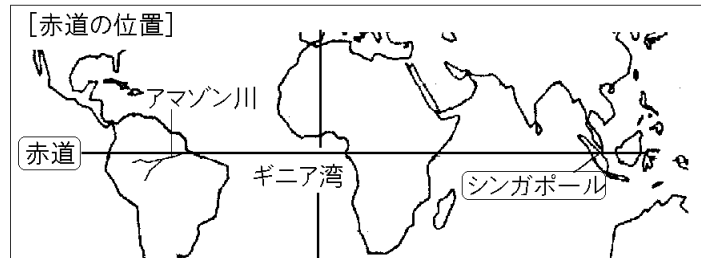
※入試出題頻度：この単元はしばしば出題される。

[解答 4]ウ

[解説]

赤道は南アメリカ大陸のアマゾン川流域、アフリカ大陸のギニア湾、東南アジアのシンガポール付近を  
通っている。

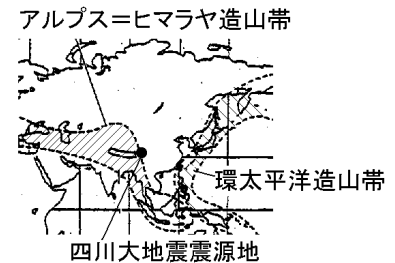
※入試出題頻度：「赤道の位置○」



[解答 5]地震

[解説]

アジアは、世界三大造山帯(地震帯)のうちの 2 つの造山帯(環太平洋造山帯とアルプス・ヒマラヤ造山帯)が交わる地域で、地震や火山の噴火が多い。



【】 気候

[季節風(モンスーン)]

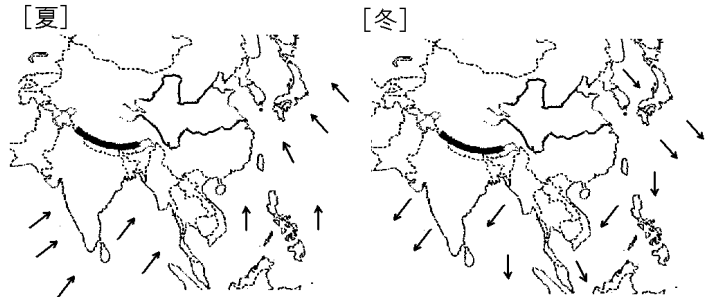
[解答 6]モンスーン(季節風)

[解説]

アジアの東部と南部では、右下の図のように、半年ごとに風向きが逆になり、夏は海から陸方向へ、冬は陸から海方向へ風がふく。この風をモンスーン(季節風)という。

[モンスーン(季節風)]  
 夏:海から湿った風 → 雨季  
 冬:大陸から乾いた風 → 乾季

インドシナ半島やインド半島では、夏は海からの湿った季節風がふくため雨量が多い(雨季)。冬は、大陸から乾燥した季節風がふくため雨量が少ない(乾季)。一方、大陸内部から西アジアにかけては、太平洋やインド洋からの風の影響が及ばないため乾燥帯になっている。



※入試出題頻度:「モンスーン(季節風)◎」「夏と冬の風向き○」「雨季△」「乾季△」

[解答 7]ウ

[解答 8]① 季節風(モンスーン) ② 雨季 ③ 乾季

[解答 9]① インド洋 ② ヒマラヤ

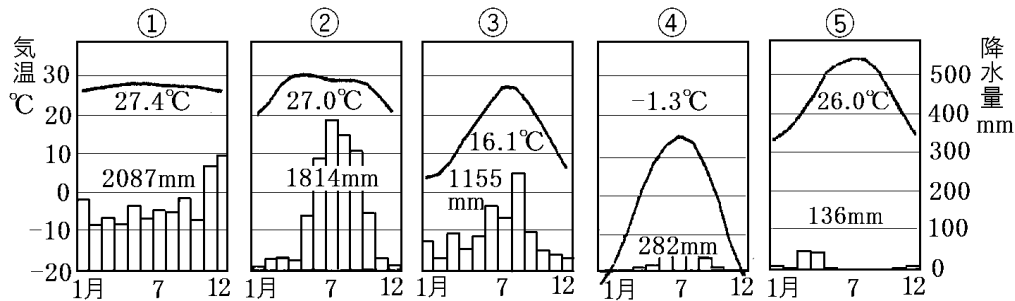
[解答 10]ウ

[解答 11]エ

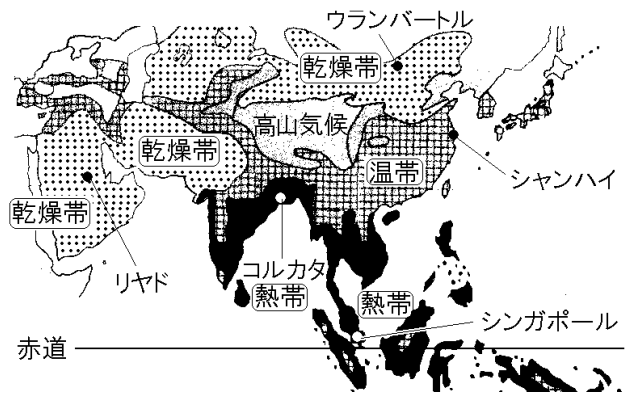
[雨温図など]

[解答 12]① シンガポール ② コルカタ ③ リヤド

[解説]



上の①～⑤の雨温図が何という気候帯のものかを判断し、次に、それぞれ右の地図中の5つのどの都市のものかについて考えてみる。まず、降水量が非常に少ない乾燥帯の雨温図がないかどうか調べる。雨温図のうち、④と⑤は降水量が非常に少ないことから、乾燥帯のものだと判断できる。右の分布図から、乾燥帯に属するのはリヤ



ドとウランバートルの2つである。ウランバートルはリヤドより高緯度にあるので、気温が低い。したがって、④がウランバートル、⑤がリヤドの雨温図と判断できる。残りの①～③は、コルカタ(熱帯)、シンガポール(熱帯)、シャンハイ(温帯)のいずれかなので、熱帯か温帯である。このうち①と②は平均気温が20℃台なので熱帯であると判断できる。赤道直下にあるシンガポールは、年中雨の多い熱帯雨林気候なので、雨温図は①であるとわかる。赤道からはなれたコルカタは、雨季と乾季のある熱帯のサバナ気候なので、雨温図は②であると判断できる。

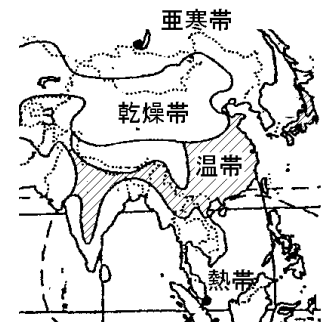
温帯にあるシャンハイの雨温図は、平均気温が10℃台である③である。

※入試出題頻度：この単元はよく出題される。

[解答 13]イ

[解説]

Dは赤道付近で1年中雨が多く高温な熱帯雨林気候である(雨温図はア)。Cの上海は温帯で雨温図はイである。Bは乾燥帯で雨温図はエである。Aは亜寒帯で雨温図はウである。



[解答 14](1) ウ (2) ア

[解説]

地図のウが赤道である。赤道付近(X)の気候は熱帯雨林気候で、気温は1年中高く季節の変化は少なく、雨量も1年中多い。気温のグラフが水平になっているアが熱帯雨林気候の雨温図と判断できる。

[解答 15]① 熱帯 ② 降水量が多い雨季と少ない乾季がある

[解説]

バンコクは、熱帯の中でも雨季と乾季があるサバナ気候に属する。赤道直下のシンガポールは一年中雨が多く、熱帯の中の熱帯雨林気候に属する。

[解答 16]サバナ気候

[解答 17]ア

【】 東アジア

[中国の人口]

[解答 18]一人っ子政策

[解説]

1949年の建国時に5億人台であった中国の人口は、増加を続け、1970年には8億人を越え、2022年現在の人口は14.3億人になった。人口増加は食料不足をもたらすおそれがあったので、中国政府は人口増加を抑えるために、1979年に1夫婦に子どもは1人という一人っ子政策ひとりっこせいさくを始めた。この政策は一定の効果をあげ、人口増加率は低下してきている。しかし、その結果として、急激な少子高齢化しょうしこうれいかが問題になりつつある。現在ではこの政策が見直され、2016年以降すべての夫婦が2人まで子どもを持つことができるようになった。

【一人っ子政策】 人口増加を抑える目的 ↓ 人口増加率が低下 少子高齢化
--

一人っ子政策をとったために、中国の人口増加率が低下しているのに対し、インドは出生率しゅっせいりつが高い状態が続いている。2010年時点では、中国が13.4億人でインドが12.3億人であったが、2022年には、中国が14.3億人でインドが14.2億人とほぼ同数になった。今後、インドの人口が中国の人口を上回るようになる」と予想されている。

(統計修正)「日本国勢図会 2023/2024」P16

※入試出題頻度：「一人っ子政策○」「人口増加を抑えるため△」「14.4億人△」

[解答 19]人口の増加をおさえるため。

[解答 20]① イ ② 一人っ子政策によって人口増加が抑えられたため。

[解答 21]① 中国 ② ウ

[解説]

ア～ウのグラフのうち、高齢者の割合が高く若年層の割合が低い少子高齢化が最も進んでいるイが日本のグラフである。中国も一人っ子政策の影響などで少子高齢化が進んでいるため、ウが中国のグラフと判断できる。若年層の割合が多いアはインドのグラフである。

[解答 22]15歳から64歳までの人口が減少することが予測されるので、労働力が不足することが考えられる。

[解答 23]14.3億人

[多民族国家]

[解答 24]漢

[解説]

中国では人口の約 9 割をしめる漢族(漢民族)のほかに、55 の少数民族がくらしている。少数民族は主に中国の西部で生活している。このように、多様な文化や宗教が入りまじり、さまざまな民族がくらしている国を多民族国家という。

[中国:多民族国家]  
 (漢族):人口の約9割  
 少数民族:西部で生活  
 華人

東南アジアなどの各地に移り住み、商業や金融業を営み、現地の国籍をとって定着した中国系の人々を華人という。これに対し、華僑は中国の国籍をもったまま移住した者をさす。

※入試出題頻度:「漢族(漢民族)○」「少数民族△」「華人△」

[解答 25]華人

[解答 26](1) 漢族(漢民族) (2) 少数民族 (3) 西部 (4) 華人

[解答 27]イスラム教

[解説]

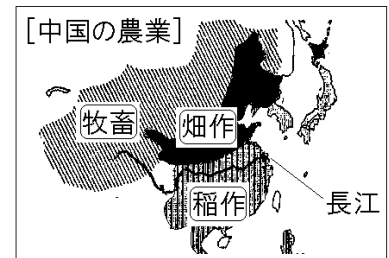
■で示した民族はウイグル族で、イスラム教を信仰している。

[中国の農業]

[解答 28]米

[解説]

中国の農業は大きく 3 つに区分される。揚子江流域の華中やチュー川流域の河南など、温暖で降水量の多い地域では稲作や茶の栽培がさかんである。華南のチュー川流域では、暖かい気候を利用して米の二期作が行われている。降水量が少ない黄河流域の華北や東北地方では、小麦、大豆、とうもろこしなどの畑作が中心である。乾燥した西部では羊などを飼う牧畜(遊牧)が行われている。中国は、小麦や米の生産量が世界 1 位である。しかし、人口が多いため、生産量された小麦や米は国内で消費され、さらに、不足分は輸入にたよっている。



※入試出題頻度:「南部で稲作○」「北部で畑作(小麦や大豆) ○」「西部で牧畜(遊牧) ○」

[解答 29]エ

[解説]

アは①, イは④, ウは②, エは③

[解答 30]イ

[解説]

「ある穀物」とは小麦のことである。

[解答 31]① 畑作 ② 稲作 ③ 牧畜

[解答 32]① 小麦 ② 黄河 ③ 長江 ④ 米

[解答 33]年降水量が 1000mm より多い。

[解答 34]牧畜(放牧)

[経済特区]

[解答 35]経済

[解説]

中国は、外国企業を受け入れて、資本や技術を導入するため、1979年にシェンチェンやアモイなどを経済特区に指定した。日本やアメリカの企業にとって、安くて豊富な労働力が手にはいる中国へ進出する利益が大きかったので、あいついで進出を行った。

経済特区に指定された地区はいずれも沿岸部である。これは、沿岸部のほうが、船での輸出や輸入に便利だからである(陸上輸送の費用は海上輸送費用よりはるかに高い)。

その後、沿岸部を中心に工業化、経済成長が急速に進み、中国の工業製品は世界中に輸出されるようになり、中国は「世界の工場」と呼ばれるようになった。

※入試出題頻度：「経済特区(地図)◎」「外国企業を受け入れて資本や技術を導入するため△」「安くて豊富な労働力△」

[中国の経済成長]  
外国企業を受け入れて  
資本や技術を導入するため  
経済特区 沿岸部の都市  
安くて豊富な労働力  
→外国企業が進出



[解答 36]経済特区

[解答 37]経済特区を設け、外国企業を受け入れる

[解答 38]外国企業を受け入れて、資本や技術を導入するため。

[解答 39]経済特区が設けられており、他の場所から来て滞在している人が多い。

[中国：沿海部と内陸部の経済格差]

[解答 40]ウ

[解説]

外資導入などの改革開放政策により、1990年代から、中国は高い経済成長を続けた。しかし、経済成長の中心は沿岸部の都市で、内陸部、とくに農村は貧しいままになっている。

[沿岸部と内陸部の経済格差]

沿岸部が経済発展

沿岸部と内陸部の格差が大きくなった

沿岸部都市と内陸部農村部の経済格差は拡大し続けている。内陸部の農村と沿岸部の都市では所得の格差があるため、農村から都市へ高い収入を求めて出かせぎへ行く人(農民工)が増えている。また近年は、急速な工業発展によって大気汚染などの公害が問題となっている。

※入試出題頻度：「内陸部と沿岸部の経済格差が大きくなった○」

[解答 41](1) 経済特区 (2)① 高 ② 内陸 ③ 沿海

[解答 42]ア

[解説]

アは中国、イはドイツ、ウは日本、エはアメリカ合衆国である。

[解答 43]ア

[解説]

アが誤り。チベット族、ウイグル族などの少数民族はBの地域に住んでいる。

[中国の貿易]

[解答 44]エ

[解説]

かつての中国の輸出品は、衣類、糸・織物の繊維製品、石油や食料などが中心であったが、近年、著しい工業発展をとげた結果、機械類などが輸出の中心になってきている。

[輸出の変化]

衣類, 繊維製品, 石油, 食料

→機械類

中国の輸出品(2021年)：機械類(43.0%)、衣類(5.2%)、繊維品(4.3%)

(統計修正)「世界国勢図会 2023/2024」P306

※入試出題頻度：「輸出：衣類・繊維製品・石油・食料→機械○」

[解答 45]主な輸出品目が、石油や繊維製品から機械類に変わっているのが、重工業が発達したと考えられる。

(統計修正)「世界国勢図会 2023/2024」P306

[中国の都市]

[解答 46]ア

[解説]

中国の首都はペキンである。シャンハイは、中国最大の都市で、大きな貿易港がある。アモイとシェンチェンは 1979 年に経済特区に指定され、外国企業が進出して発展した都市である。ホンコンは 1997 年にイギリスから中国に返還された都市である。  
※入試出題頻度：「ペキン(地図)△」「シャンハイ(地図)△」



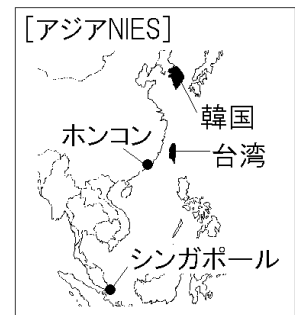
[解答 47]シャンハイ

[アジア NIES の国々]

[解答 48]アジア NIES

[解説]

近年急速に工業が発達した国や地域をNIES(新興工業経済地域)という。NIESにふくまれる国・地域は、韓国、台湾、ホンコン、シンガポール、メキシコ、ブラジル、ギリシャ、ポルトガル、スペイン、ユーゴスラビアである。このうち、アジアにある韓国、台湾、ホンコン、シンガポールをとくにアジアNIESと呼んでいる。



※入試出題頻度：「アジア NIES○」

「韓国、台湾、ホンコン、シンガポール△」

[解答 49]シンガポール

[解答 50]① ホンコン ② アジア NIES

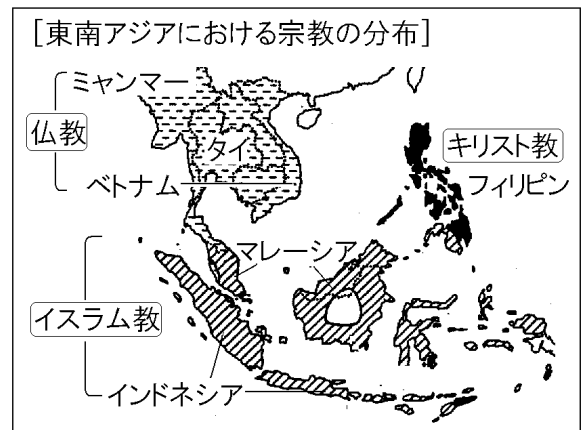
【】 東南アジア

[東南アジアにおける宗教の分布]

[解答 51]仏教

[解説]

仏教はインドから東南アジアの北部に伝わった。ミャンマー、タイ、ベトナム、ラオス、カンボジアなどに仏教徒が多いのはそのためである。イスラム教は 7 世紀にアラビア半島でおこり、東西にまたがる広大なイスラム帝国がつけられた。イスラム商人はインド、東南アジア南部、中国にかけて海上貿易を行っており、イスラム教はインド、東南アジア南部(現在のマレーシア、インドネシア)におよんだ。





新航路の発見後、16世紀ごろ、スペインやポルトガルはアジアへ進出した。こうしたなかで、フィリピンはスペインの植民地となった。スペインはキリスト教布教を植民地支配の手段として活用したため、フィリピンではキリスト教が広まった。

※入試出題頻度：「タイなどは仏教○」「マレーシア・インドネシアはイスラム教○」  
「フィリピンはキリスト教△」

[解答 52]イスラム教

[解答 53]ウ

[解説]

アは仏教、イはヒンドゥー教やユダヤ教、ウはイスラム教、エはキリスト教の特徴である。

[解答 54](1) イスラム (2) D

[解説]

東南アジアで人口が1億人をこえるのはDのインドネシアだけである。インドネシアではイスラム教が信仰されているが、イスラム教徒は、豚肉、血の残った肉、異教徒によって処理された肉をタブーとして食べない。AのベトナムとBのタイは仏教徒が多い。Cのマレーシアは60%がイスラム教徒だが、人口は約2500万人である。

[解答 55]スペイン

[解答 56]A フィリピン B カンボジア C マレーシア

[解答 57]① 仏 ② イスラム ③ スペイン ④ キリスト

[ASEAN]

[解答 58]ASEAN

[解説]

1967年に結成されたASEAN(東南アジア諸国連合)では、輸入品にかける<sup>かんぜい</sup>関税をお互いに無くすなど、加盟国間の貿易や人の交流をさらに活発にしようとしている。現在、東南アジアのほとんどの国がASEANに加盟している。

ASEAN 東南アジア諸国連合
--------------------

※入試出題頻度：「ASEAN(東南アジア諸国連合)◎」

[解答 59](1)① ASEAN ② 東南アジア諸国連合 (2) 関税

[解答 60]APEC

[東南アジアの稲作]

[解答 61]二期作

[解説]

インドシナ半島には、メコン川、チャオプラヤ川、エーヤワディー川などの大河が流れ、下流域に大きな三角州ができている。この一帯は6月から10月ごろまで海から湿ったモンスーン(季節風)がふく。このころが雨季で、稲作が行われる。

[東南アジアの稲作]  
米の(二期作)  
かんがい設備の整備→増産

東南アジアは一年中気温が高いので、1年間に2回も米を作る二期作が行われている地域もある(二期作とは、同じ土地で、年に2回、同じ作物を作ることである)。

以前は人々が牛や馬を使って農作業をしていたため、農村の人口密度は高い状態が続いていたが、作業の機械化やかんがい施設の整備、品種の改良によって、必要な労働力は減り、かつ、米の生産量は大幅に増加した。

※入試出題頻度：「米の二期作◎」「同じ土地で、年に2回、同じ作物を作ること△」

[解答 62]イ

[解答 63]① 二期作 ② 高い

[解答 64](1) 乾季 (2) 同じ土地で、年に2回、同じ作物を作ること。

[解答 65]① モンスーン(季節風) ② 稲

[解答 66]イ

[解説]

Zは赤道付近にあり熱帯で、気温は1年中高い。したがって、Zの気温のグラフはaである。また、東南アジアでは稲作が盛んである。

[米の生産国と輸出国]

[解答 67]X : B Y : A

[解説]

米の生産が多いのは中国とインドである。しかし、中国は人口が多いため国内の消費も多く、生産した米のほとんどを国内で消費するため、米の輸入量が輸出量よりも多い。

[米の生産・輸出]  
生産量:1位中国, 2位インド  
輸出量:1位インド, 2位(タイ)

米の輸出は、インドが1位で、2位がタイである。

	インドネシア					
米の生産(2021年) 7.87億t	中国 27.0%	インド 24.8	7.2	6.9	5.6	その他
			バングラデシュ	ベトナム		
	パキスタン					
米の輸出(2021年) 5066万t	インド 41.5%	タイ 12.0	9.2	7.8		
			ベトナム	アメリカ	5.6	

(統計修正)「日本国勢図会 2023/2024」P143, 144

※入試出題頻度：「米の輸出世界 1 位はインド，2 位はタイ○」

[解答 68]① 米 ② 生産 ③ 輸出

(統計修正)「日本国勢図会 2023/2024」P143, 144

[東南アジアのプランテーション]

[解答 69]プランテーション

[解説]

マレーシアやインドネシアなどでは、天然ゴムやコーヒーなどを大農園で栽培するために植民地の時代につくられたプランテーションが、第二次世界大戦後には現地の人々によって経営されるようになった。マレーシアとインドネシアでは、あぶらやし(マーガリン等を作るためのパーム油の原料)の農園にするために大規模な開発が進み、熱帯林(熱帯雨林)の減少も起きている。タイやインドネシアなどの海岸では、日本に輸出するためにえびの養殖場をつくるためにマングローブ林が伐採されている。フィリピンではバナナ農園が開かれてきた。

[プランテーション]

植民地時代の大農園

戦後、現地の人々が経営

あぶらやし、えびの養殖場、バナナ

→環境問題(熱帯雨林の減少)

※入試出題頻度：「プランテーション○」「フィリピンのバナナ△」「熱帯林の減少○」

[解答 70]バナナ

(統計修正)「日本国勢図会 2023/2024」P154

[解答 71]① あぶらやし ② えび ③ バナナ

[解答 72]熱帯林(熱帯雨林)

[外国企業の進出と工業化]

[解答 73]安くて豊富な労働力が得られるから。

[解説]

近年、東南アジアや中国などに、日本企業などの外国企業が進出した。これは、日本と比べて労働者の賃金はるかに安いためである。家電製品、自動車、冷凍食品などをつくる日本企業が、アジアの国々に工場を建設して日本向けの製品を生産している。さらに、アジア各国で経済が発展すると、これらの国々向けの製品を生産するために、日本から進出する企業も増えている。タイやマレーシアなどの工業が発達してきた国々は、工業団地をつくって外国の企業を積極的に受け入れる政策をとっている。

[東南アジアへの外国企業の進出]

労働者の賃金が安いため

タイやマレーシア

工業団地をつくって外国企業を誘致

最近では、人件費の上昇などが原因で中国から撤退し、かわりに、東南アジアへ進出する日本企業が増えている。

※入試出題頻度：「労働者の賃金が安いため○」

[解答 74](1) 日本と比べて労働者の賃金が安いため。 (2) 工業団地

[解答 75]タイ：イ ベトナム：エ

[解説]

2000年より以前から、タイ、マレーシア、インドネシアには多くの日本企業が進出していた。特に、タイへの進出企業数が最も多い。近年では、より賃金の安いベトナムやミャンマーに進出する企業が増えている。東南アジアの国で人口が1億人を超えているのは、インドネシア(約2.7億人)とフィリピン(約1.2億人)で、ベトナム(0.96億人)がこれに次いでいる。タイは約7千万人、マレーシアは約3千万人である。

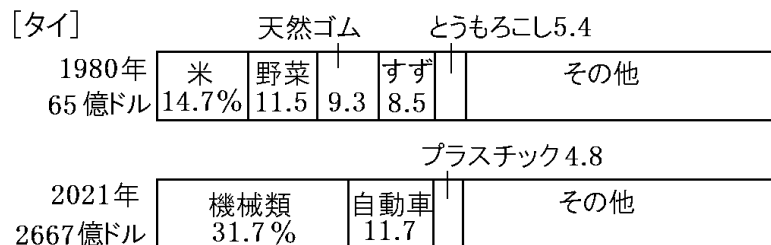
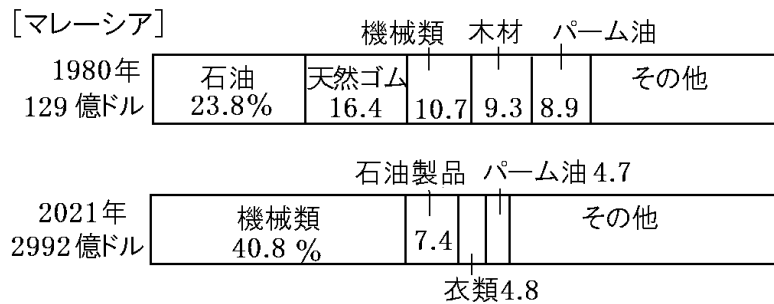
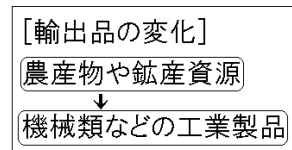
以上より、アはマレーシア、イはタイ、ウはインドネシア、エはベトナムとわかる。

[輸出品の変化]

[解答 76]① 農産物 ② 工業製品

[解説]

下のグラフからもわかるように、かつて、マレーシアやタイなどの輸出の中心は、農産物(天然ゴム、米など)や鉱産資源(石油、すずなど)が中心であった。しかし、工業化が進み、現在では、機械類などの工業製品が輸出の中心になった。



(統計出典)「世界国勢図会 2023/2024」P310, 312

※入試出題頻度：「鉱産資源や農産物→機械類などの工業製品○」

[解答 77]主な輸出品目が農産物や鉱産資源から機械類などの工業製品に変わり、輸出総額が増加した。

[急速な都市化と課題]

[解答 78]エ

[解説]

東南アジアでは、工業化によって経済が成長すると、都市部の人々の収入は増え、生活水準が向上した。一方で、農村で暮らす人々との収入の格差は広がった。農作業の機械化によって労働力が余ってくると、仕事や高い収入を求めて、人々が農村から都市へ出ていき、1960年代か

[農村の変化と急速な都市化]  
農業の機械化が進んで人手が余る  
↓  
若者が農村から都市へ  
↓  
都市問題(スラム, 交通渋滞など)

ら都市の人口が急速に増えた。都市では、スラムとよばれる生活環境の悪い住宅地ができたり、交通量が増えて日常的に渋滞が激しくなったりする都市問題が起こっている。

※入試出題頻度：この単元はときどき出題される。

【】南アジア

[宗教など]

[解答 79]ヒンドゥー

[解説]

南アジアでは、ヒンドゥー教徒が多く、インドでは約80%をしめている。ヒンドゥー教徒は、牛を神の使いと考え牛肉を食べない。また、ガンジス川は聖なる川とされ、人々が水に身をひたして沐浴(体を清め罪を流し去ること)を行う。ヒンドゥー教はカース

[南アジアの宗教]

インド：ヒンドゥー教, カースト制度  
パキスタンと Bangladesh: イスラム教  
スリランカ: 仏教

ト制度といわれる身分制度とつながりが深い。パキスタンや Bangladesh ではイスラム教徒が、スリランカでは仏教徒が多く見られる。地域によって異なる多くの言語が使われているが、共通言語になっている英語を話す人も多い。

※入試出題頻度：「ヒンドゥー教◎」「カースト制度△」

[解答 80]① ヒンドゥー教 ② 沐浴

[解答 81]イ

[解説]

イはイスラム教徒の生活のようすである。

[解答 82]多くのインド人は、牛を神聖なものとして崇拝するヒンドゥー教を信仰しているから。

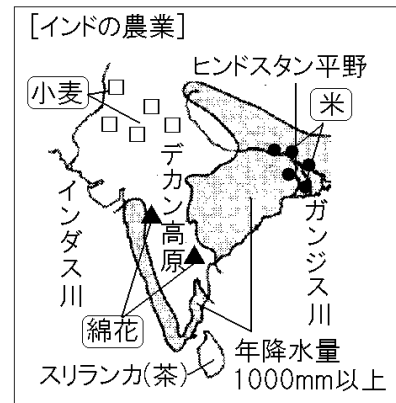
[解答 83]カースト制度

[インドの農業]

[解答 84]① ア ② 米(稲)

[解説]

インドの農業の中心はヒンドスタン平野である。年降水量が 1000mm以上のガンジス川下流域では米が栽培されている。降水量が 500mm以上 1000mm以下のガンジス川上流地域やインダス川流域では、乾燥した気候に適した小麦の栽培が行われている。また、輸出用の作物の栽培もさかんで、降水量の多いアッサム地方やスリランカの高地では茶、乾燥した北西部やデカン高原では綿花が生産され、世界各地に輸出されている。南アジアでは、人口増加による食料不足が心配されたので、作物の品種改良や化学肥料の普及などが進められてきた。その結果、インドやパキスタンでは、米や小麦の生産量が大幅に増えた。



※入試出題頻度：「米：年降水量が 1000mm 以上のガンジス川下流域○」

「小麦：500～1000mm の乾燥した地域○」「綿花：デカン高原○」

[解答 85]① ガンジス川 ② 綿花

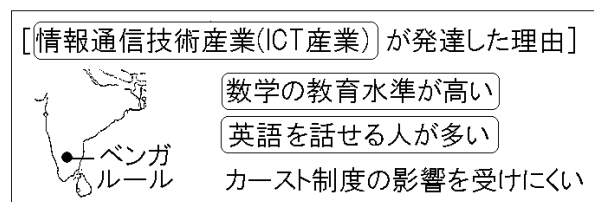
[解答 86]米は年降水量が 1000mm 以上の地域で、小麦は 500mm 以上 1000mm 以下の地域で主に栽培されている。

[インドの新しい産業]

[解答 87]インド

[解説]

インドでは、ベンガルールを中心に情報通信技術産業(ICT産業)(情報通信技術関連産業(ICT関連産業))がさかんである。中でもソフトウェア産業の伸びが著しい。インドはもともと数学の教育水準が高く、



英語が話せる人も多い(かつてイギリスの植民地であったから)。当初はアメリカのシリコンバレーなどへインドの技術者が渡り、ソフトウェアの開発にたずさわっていたが、現在は国内での開発が中心になっている。

ICT 産業(ICT 関連産業)は新しい産業であるため、身分と職業を制約するカースト制度の影響を受けにくいと、人々に広く受け入れられたという側面がある。

※教科書によって、「情報通信技術産業(ICT 産業)」と表現している教科書と、「情報通信技術関連産業(ICT 関連産業)」と表現している教科書がある。

※入試出題頻度：「情報通信技術産業(ICT 産業)○」「ベンガルール○」「英語や数学○」

[解答 88]ICT

[解答 89]英語

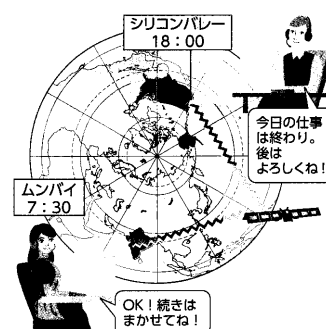
[解答 90](1) ICT 産業 (2) ベンガルール (3) インドでは英語が普及しているから。

[解答 91]約半日の時差があるので、アメリカの企業が発注した仕事を、アメリカが夜の間にインドの企業が行うことができるから。

[解説]

インドは、ICT 関連産業が世界で最も発達しているアメリカ合衆国と、約半日の時差があるため昼と夜が反対になる。この利点を生かし、アメリカ合衆国が夜の間に、コールセンター(電話対応)業務や

[コールセンターなど]  
アメリカと約半日の時差  
英語を話せる人が多い。  
↓  
コールセンター業務や  
ソフトウェアの開発を  
夜間にインドで行う。



ソフトウェアの開発などの仕事をアメリカ合衆国の企業から請

け負うことで、インドの ICT 関連産業は大きく成長した。アメ

リカでの夜の時間帯に、アメリカの企業 A 社への電話をインドのコールセンター B 社につなぐことで、アメリカの企業 A 社は 24 時間対応できるようになる。

※入試出題頻度：この単元はしばしば出題される。

[解答 92]インドの準公用語が英語であり、インドとアメリカでは約 12 時間の時差があること。

[解答 93]エ

[解説]

アは中国、イは東南アジア、ウはアメリカのことである。

[解答 94]ア

[解答 95]① ヒンドゥー教 ② ガンジス川 ③ 稲作 ④ 情報技術産業

[解答 96]イ, エ

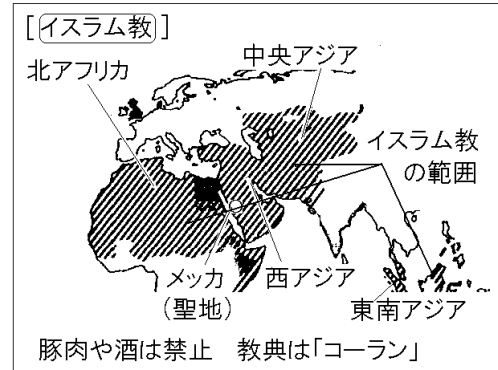
【】西アジア・中央アジア

[西アジアの宗教]

[解答 97]イスラム教

[解説]

西アジアには、アラビア語を使うアラブ系の人々が生活する国が多く、人口のほとんどがイスラム教の信者である。イスラム教徒は、教典の「コーラン」に従って日常生活を送っており、1日5回、聖地であるメッカの方角へ向けて礼拝する。また、豚肉を食べたり、酒を飲んだりすることは禁じられている。イスラム暦の9月に行われる断食や、メッカへの巡礼などは、イスラム教徒の義務とされている。



※入試出題頻度：「イスラム教○」「メッカ(地図)△」「コーラン△」「豚肉や酒は禁止△」

[解答 98]イ

[解答 99]① Q ② S

[ペルシャ湾沿岸の石油]

[解答 100]ペルシャ湾

[解説]

世界の石油埋蔵量の約半分は、ペルシャ湾沿岸を中心とする一帯に集中している。また、石油の生産量・輸出货量にもペルシャ湾沿岸の産油国が大きな割合を占めている。日本の石油輸入の約8割はペルシャ湾沿岸の国々からで、その中でも多いのが、サウジアラビアとアラブ首長国連邦である。アラブ首長国連邦のドバイには世界一高いビルがあり、リゾート地としても有名である。

【ペルシャ湾沿岸の石油】

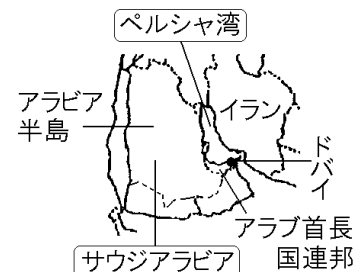
パイプラインやタンカーで輸送  
日本の石油輸入国

1位：サウジアラビア

2位：アラブ首長国連邦  
(ドバイ:リゾート地)

OPEC(石油輸出国機構)

西アジアの産油国は、石油の価格や生産量を調整し、産油国の利益を守るため、1960年にOPEC(石油輸出国機構)を内陸で産出される石油を港まで運ぶためにパイプラインが利用され、港からはタンカーで輸送される。



西アジアでは、資源をめぐる利害対立や部族紛争などの内戦で、周辺に避難してくる人々がいる。この人々を難民という。

※入試出題頻度：「ペルシャ湾○」「石油◎」「サウジアラビア○」「アラブ首長国連邦△」「ドバイ△」「OPEC(石油輸出国機構)◎」



[解答 101]① イスラム教 ② 石油

[解答 102](1) 西アジア (2) 乾燥帯

[解答 103]OPEC

[解答 104](1)1 位 : サウジアラビア 2 位 : アラブ首長国連邦 (2) ドバイ

(3) パイプライン (4) 難民

[中央アジア]

[解答 105](1) レアメタル (2) シルクロード

[解説]

中央アジアの大部分は乾燥帯かんそうたいに属し、人々の多くはイスラム教徒である。中央アジアの国々は、ソ連に属していたが、1991 年のソ連の解体で独立した。中央アジアは、石炭や石油、天然ガス、レアメタルきしょうきんぞく(希少金属)などの鉱産資源こうさんしげんが豊富である。また、歴史的にシルクロードいせき(絹の道)の交易で栄えた都市の遺跡などには、多くの観光客が訪れる。

※入試出題頻度 : 「レアメタル(希少金属)○」「シルクロード○」

[中央アジア] 希少金属(レアメタル) シルクロード(歴史遺産)
--